
**平成30年度 黒埼商工会 上期景況調査
報 告 書**

**平成30年8月
黒 埼 商 工 会**

目 次

I. アンケート調査の概要

1. 調査対象	1
2. 調査方法	1
3. 調査時期	1
4. 調査内容	1
5. 回収状況	1

II. アンケート調査の結果

1. 回答企業の概要	
(1) 業種	2
(2) 従業員数	2
(3) 企業区分	3
(4) 後継者の有無	3
2. 回答企業の現況	
(1) 売上	5
(2) 採算（経常利益）	7
(3) 仕入単価	9
(4) 販売（客）単価	11
(5) 資金繰り	13
(6) 雇用動向	15
(7) 景況判断	16
(8) 経営上の問題点	18
(9) 今後の事業・経営において強化したい点	19
(10) 商工会への要望・意見等	19

III. アンケート調査結果のまとめ

資料編

景況調査ヒアリングシート（平成30年度）	23
----------------------	----

I. アンケート調査の概要

1. 調査対象

黒埼商工会の会員事業者のうち、商工会事務局が抽出した30事業者

2. 調査方法

経営指導員の面談による聞き取り法

3. 調査時期

平成30年7月中旬～7月下旬

4. 調査内容

調査内容は以下の通りである。

(1) 回答企業の概要

- ・業種
- ・従業員数
- ・企業区分
- ・後継者の有無

(2) 回答企業の現況

- ・売上
- ・採算（経常利益）
- ・仕入単価
- ・販売（客）単価
- ・資金繰り
- ・雇用動向
- ・景況判断

(2) 経営上の問題点

(3) 今後の事業・経営において強化したい点（自由回答）

(4) 商工会への要望・意見等（自由回答）

5. 回収状況

回 答 数： 30件 有効回答数： 30件 有効回答率： 100%

※ 調査結果のなかには、単一回答であるものの、四捨五入の関係で合計が100%にならないものがある。また、比率の計算結果が、四捨五入の関係で一致しない場合がある

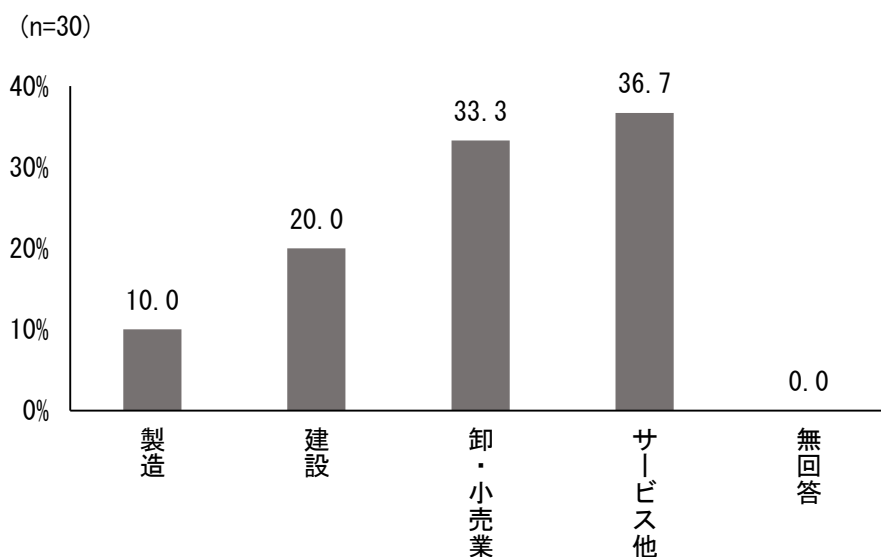
Ⅱ. アンケート調査の結果

1. 回答企業の概要

(1) 業種

回答事業者の業種は、「製造」(3件・10.0%)、「建設」(6件・20.0%)、「卸・小売業」(10件・33.3%)、「サービス他」(11件・36.7%)となっている(図表1-1)。

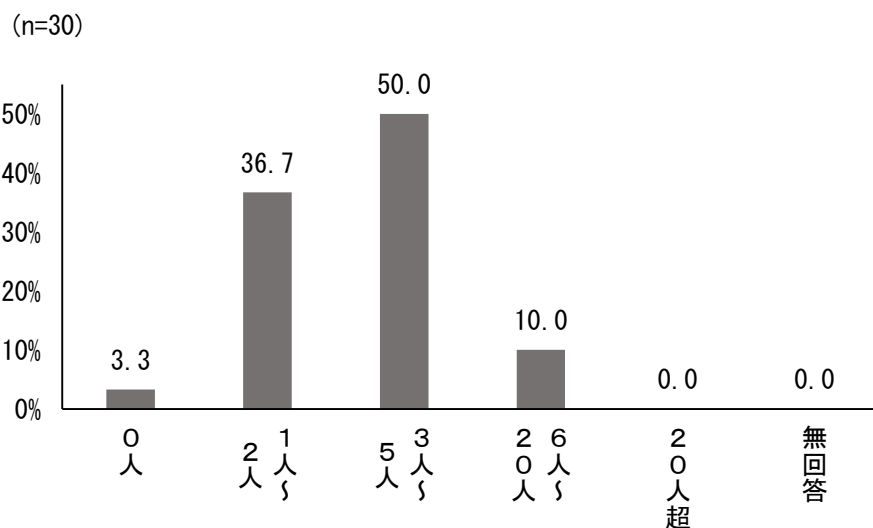
図表1-1 業種



(2) 従業員数

従業員数は、「3人～5人」(50.0%)と回答した企業の割合が最も高く、以

図表1-2 従業員数

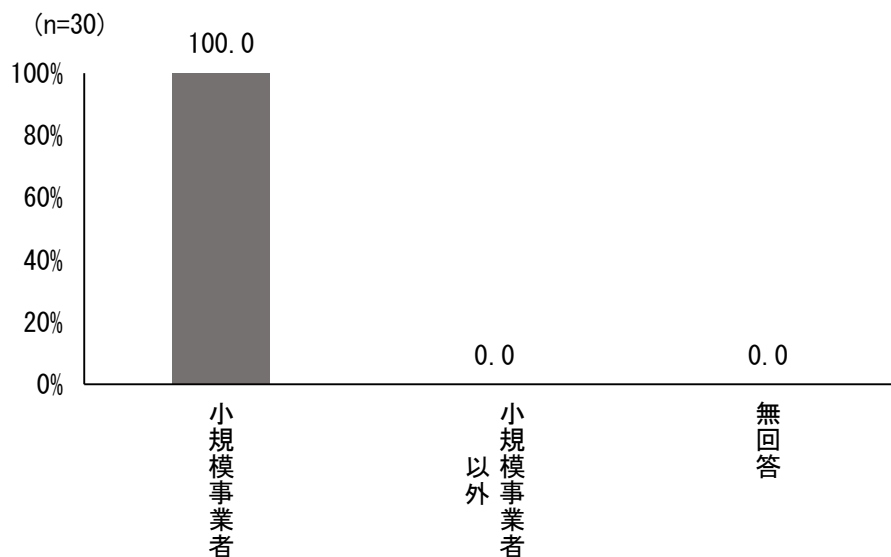


下「1人～2人」(36.7%)、「6人～20人」(10.0%)、「0人」(3.3%)などとなっている(図表1-2)。

(3) 企業区分

企業区分は、すべて「小規模事業者」(100.0%)となっている(図表1-3)。

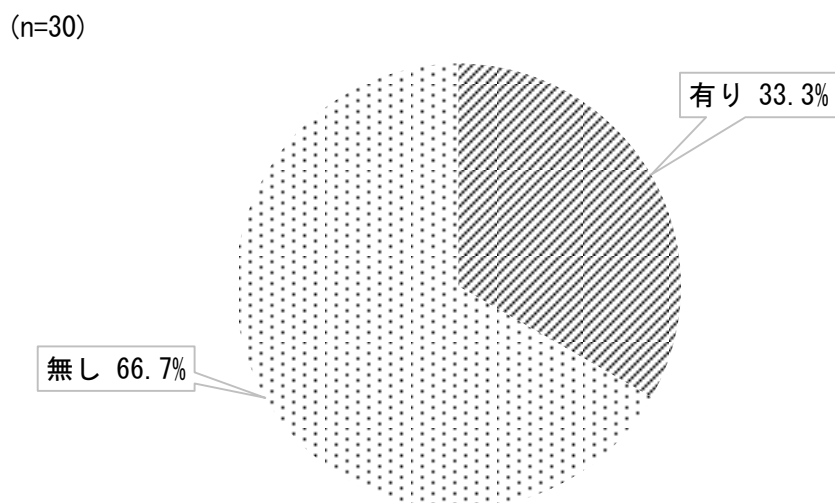
図表1-3 企業区分



(4) 後継者の有無

後継者の有無についてみると、「有り」(33.3%)の割合が約3割であるのに対し、「無し」(66.7%)が約7割となっている(図表1-4)。

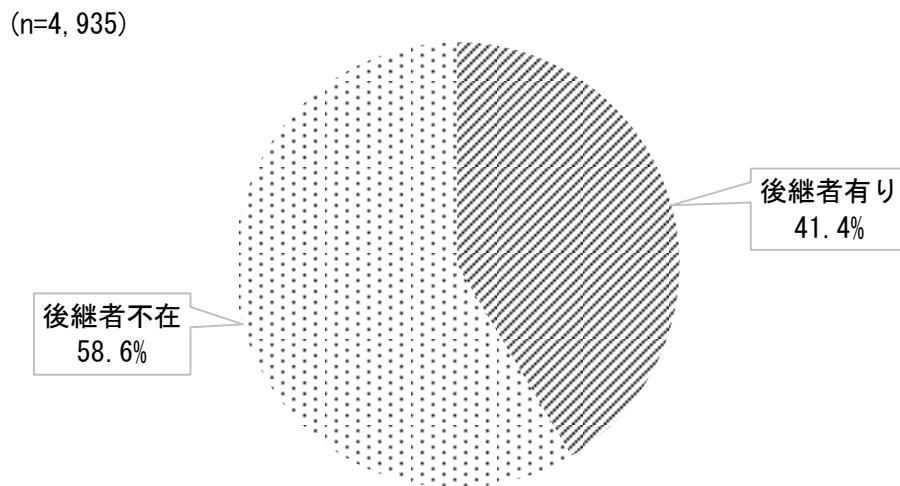
図表1-4 後継者の有無



【参 考】

株式会社帝国データバンク新潟支店の調査によると、新潟県内の企業のうち、「後継者有り」(41.4%)が約4割、「後継者不在」(58.6%)が約6割となっている(参考図表1-1)。この調査結果と今回の黒埼商工会の調査結果を比較すると、黒埼商工会の調査結果の方が、後継者が「有り」の割合がやや低く、「無し」の割合がやや高くなっている。

参考図表 1-1 後継者の有無



(資料) 株式会社帝国データバンク新潟支店
「2016年後継者問題に関する企業の実態調査(新潟県)」

2. 回答企業の現況

(1) 売上

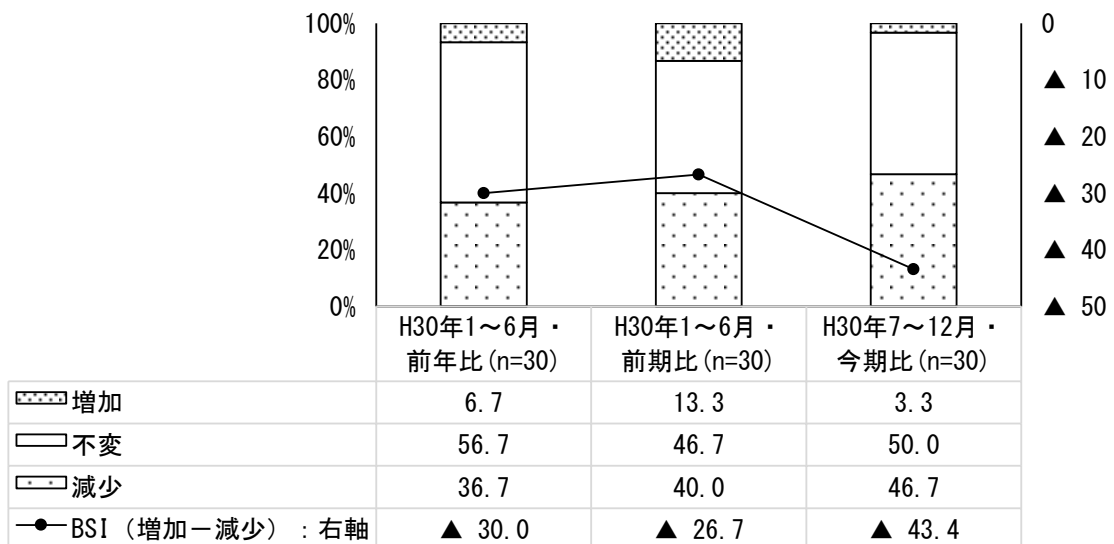
平成30年1～6月（以下、今期）の売上が、平成29年1～6月（以下、前年同期）と比べて「増加」と回答した企業の割合は6.7%、「不変」は56.7%、「減少」は36.7%となっている（図表2-1）。

また、今期の売上が、平成29年7～12月（以下、前期）と比べて「増加」と回答した割合は13.3%、「不変」は46.7%、「減少」は40.0%となっている。

続く平成30年7～12月（以下、来期）の売上の見通しについて、今期と比べて「増加」と回答した割合は3.3%、「不変」は50.0%、「減少」は46.7%となっている。

この結果、「増加」とする割合から「減少」とする割合を差し引いた指数「BSI^{*}」は、前期比でみた場合（以下同じ）、今期が▲26.7、来期が▲43.4となり、今期から来期にかけて低下する見通しとなっている。来期の売上を「増加」と見通す事業者の割合が今期から低下する一方で、来期の売上を「減少」と見通す事業者の割合が今期から上昇しており、全体的には厳しい状況が続くとみられる。

図表2-1 売上の推移



(注) 無回答がある場合、無回答を除く

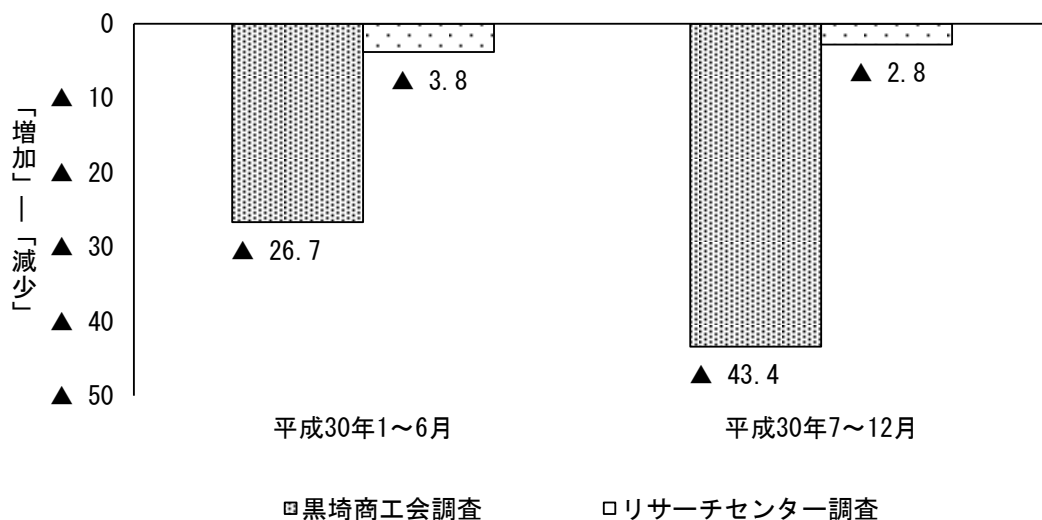
※BSIとは、アンケートの回答結果を指数化したものである。売上などが「増加」か「減少」という質問に対して「プラス（増加、好転等）」「不変」「マイナス（減少、悪化等）」の3つの選択肢を用意して、「プラス」と回答した企業の割合から「マイナス」と回答した企業の割合を差し引いた数値をいう

【参 考】

一般財団法人新潟経済社会リサーチセンターの調査（平成30年6月調査、回答事業所数：682社、以下「リサーチセンター調査」）をもとに、新潟県内の企業の売上BSIをみると、今期が▲3.8、来期が▲2.8と若干上昇する見通しとなっている（参考図表2-1）。

黒埼商工会調査では、売上BSIが低下する見通しとなっているほか、売上BSIの水準は、リサーチセンター調査に比べて低くなっている。

参考図表2-1 売上の推移



（資料）一般財団法人新潟経済社会リサーチセンター「新潟県企業動向調査」

(2) 採算（経常利益）

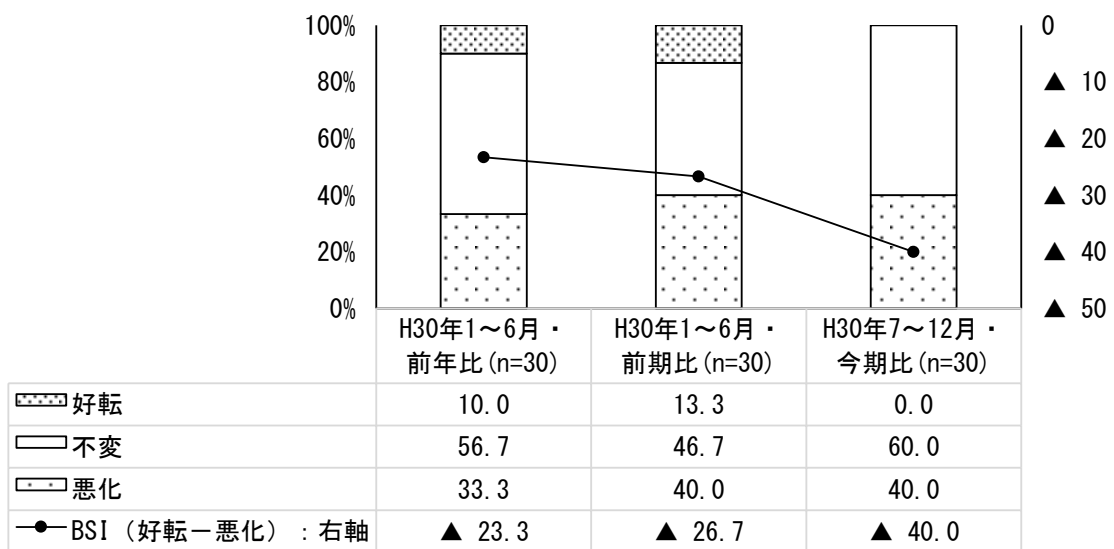
今期の採算（経常利益）が、前年同期と比べて「好転」と回答した企業の割合は10.0%、「不変」は56.7%、「悪化」は33.3%となっている（図表2-2）。

また、今期の採算（経常利益）が、前期と比べて「好転」と回答した割合は13.3%、「不変」は46.7%、「悪化」は40.0%となっている。

来期の採算（経常利益）の見通しについて、今期と比べて「好転」と回答した割合は0.0%、「不変」は60.0%、「悪化」は40.0%となっている。

この結果、採算BSIは、今期が▲26.7、来期が▲40.0となり、今期から来期にかけて低下する見通しとなっている。来期の採算（経常利益）を「増加」と見通す事業者の割合が今期から低下する一方で、来期の採算（経常利益）を「悪化」と見通す事業者の割合が今期から横ばいで推移するほか、「不変」と見通す事業者の割合が上昇していることから、全体的には厳しい状況が続くとみられる。

図表2-2 採算（経常利益）の推移



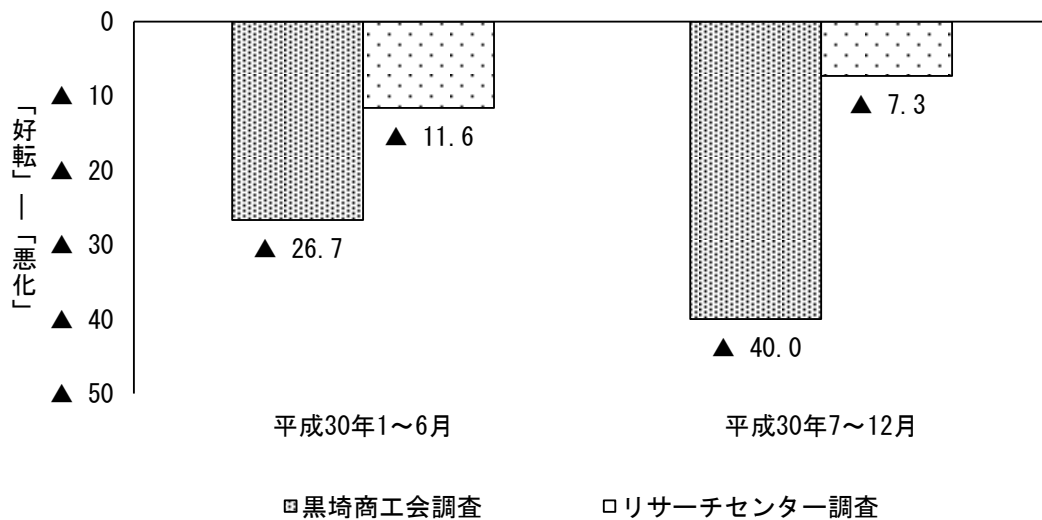
(注) 無回答がある場合、無回答を除く

【参 考】

「リサーチセンター調査」をもとに、新潟県内の企業の採算BSIをみると、今期が▲11.6、来期が▲7.3と上昇する見通しとなっている(参考図表2-2)。

黒埼商工会調査では、採算BSIが低下する見通しとなっているほか、採算BSIの水準は、リサーチセンター調査に比べて低くなっている。

参考図表2-2 採算の推移



(資料)一般財団法人新潟経済社会リサーチセンター「新潟県企業動向調査」

(3) 仕入単価

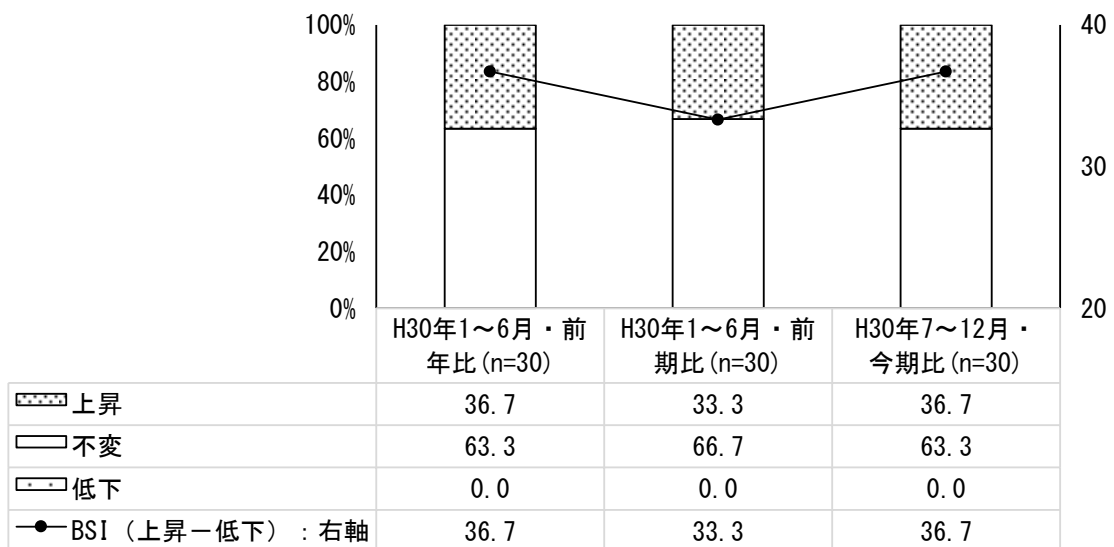
今期の仕入単価が、前年同期と比べて「上昇」と回答した企業の割合は 36.7%、「不変」は 63.3%、「低下」は 0.0%となっている（図表 2－3）。

また、今期の仕入単価が、前期と比べて「上昇」と回答した割合は 33.3%、「不変」は 66.7%、「低下」は 0.0%となっている。

来期の仕入単価の見通しについて、今期と比べて「上昇」と回答した割合は 36.7%、「不変」は 63.3%、「低下」は 0.0%となっている。

この結果、仕入単価 B S I は、今期が 33.3、来期が 36.7 となり、今期から来期にかけて、やや上昇する見通しとなっている。来期の仕入単価を「低下」と見通す事業者が皆無の一方で、今期から「上昇」または「不変」とする事業者が大半となっており、仕入単価の上昇または高止まり感が続くと思われる。

図表 2－3 仕入単価の推移



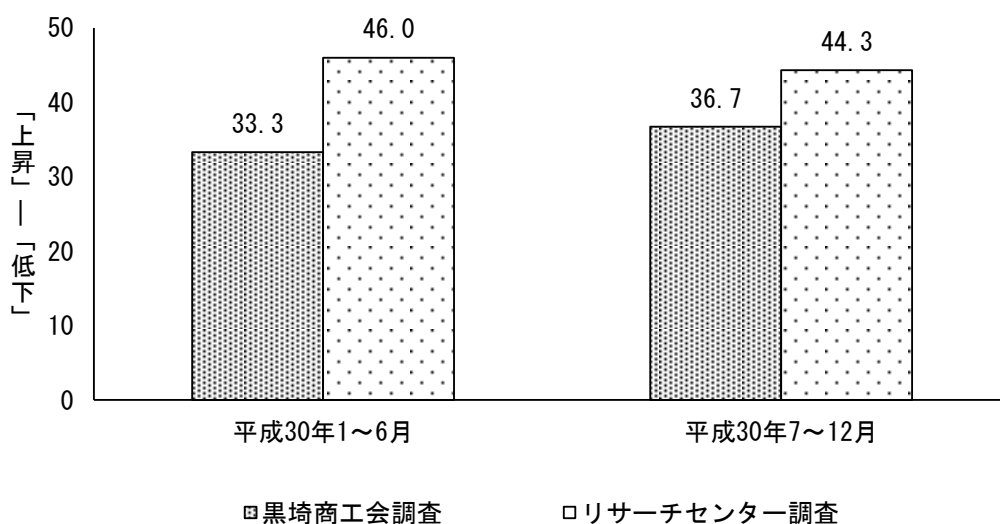
(注) 無回答がある場合、無回答を除く

【参 考】

「リサーチセンター調査」をもとに、新潟県内の企業の仕入価格BSI※を見ると、今期が46.0、来期が44.3と、ほぼ横ばいで推移する見通しとなっている（参考図表2-3）。

リサーチセンター調査では、仕入価格BSIはほぼ横ばいで推移する見通しとなっているのに対し、黒埼商工会調査では、仕入単価BSIはやや上昇する見通しとなっている。ただし、両調査とも仕入単価・価格BSIは高い水準にあり、仕入単価・価格の上昇または高止まり感が続くと思われる。

参考図表2-3 仕入単価・価格の推移



(資料)一般財団法人新潟経済社会リサーチセンター「新潟県企業動向調査」

※リサーチセンター調査では、仕入単価ではなく、仕入価格を尋ねている

(4) 販売（客）単価

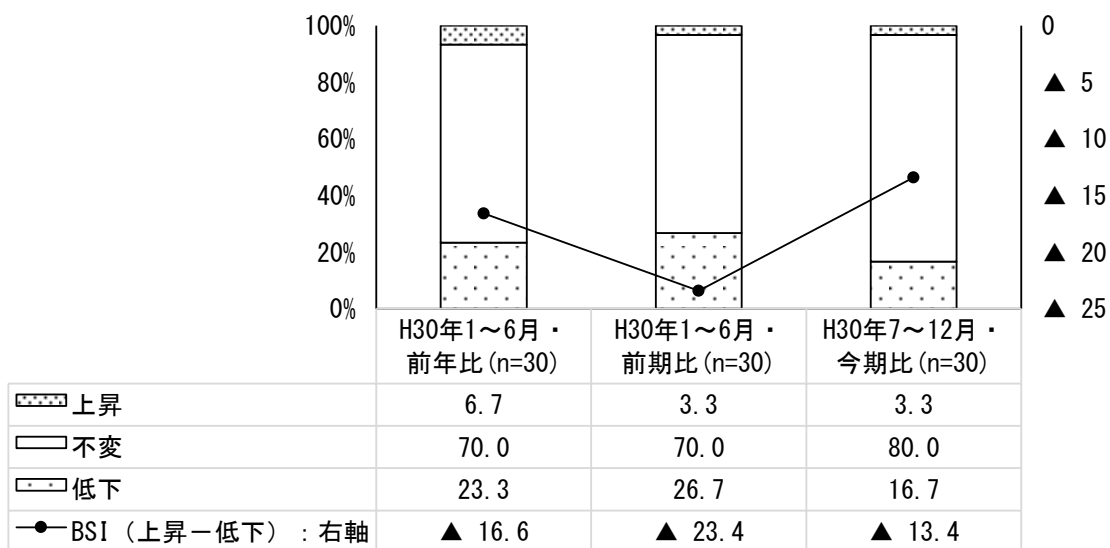
今期の販売（客）単価が、前年同期と比べて「上昇」と回答した企業の割合は6.7%、「不変」は70.0%、「低下」は23.3%となっている（図表2-4）。

また、今期の販売（客）単価が、前期と比べて「上昇」と回答した割合は3.3%、「不変」は70.0%、「低下」は26.7%となっている。

来期の販売（客）単価の見通しについて、今期と比べて「上昇」と回答した割合は3.3%、「不変」は80.0%、「低下」は16.7%となっている。

この結果、販売（客）単価BSIは、今期が▲23.4、来期が▲13.4となり、今期から来期にかけて上昇する見通しとなっている。しかし、来期の販売（客）単価を「上昇」と見通す事業者が一部である一方で、今期から「不変」とする事業者が大半を占めていることから、販売（客）単価の上昇は限定的な状況にあるとみられる。

図表2-4 販売（客）単価の推移



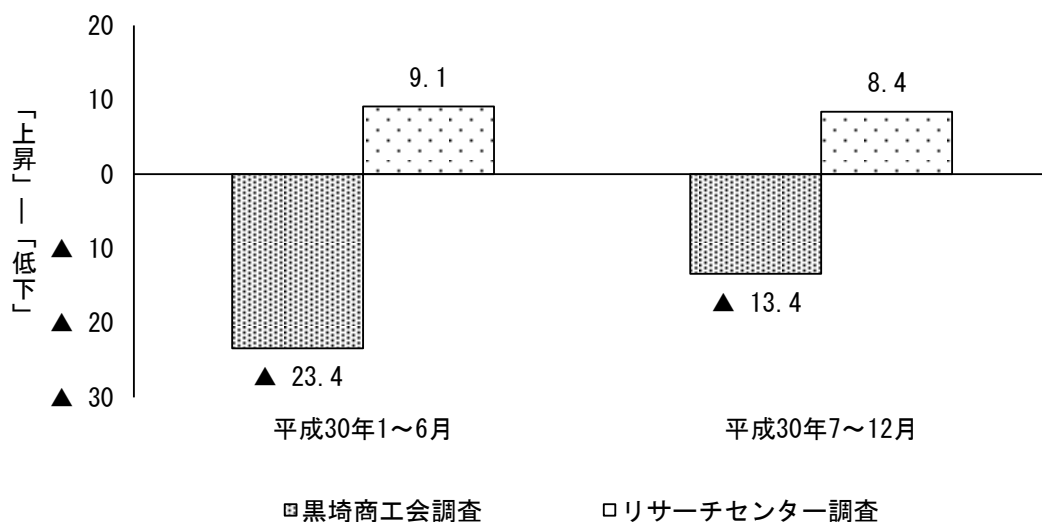
(注) 無回答がある場合、無回答を除く

【参 考】

「リサーチセンター調査」をもとに、新潟県内の企業の販売価格BSI※をみると、今期が9.1、来期が8.4とほぼ横ばいで推移する見通しとなっている（参考図表2-4）。

リサーチセンター調査では、販売価格BSIはほぼ横ばいで推移する見通しとなっているのに対し、黒埼商工会調査では、販売（客）単価BSIは上昇する見通しとなっている。しかし、黒埼商工会調査の販売（客）単価BSIの水準は、リサーチセンター調査の販売価格BSIに比べて低くなっている。

参考図表2-4 販売（客）単価・価格の推移



（資料）一般財団法人新潟経済社会リサーチセンター「新潟県企業動向調査」

※リサーチセンター調査では、販売（客）単価ではなく、販売価格を尋ねている

(5) 資金繰り

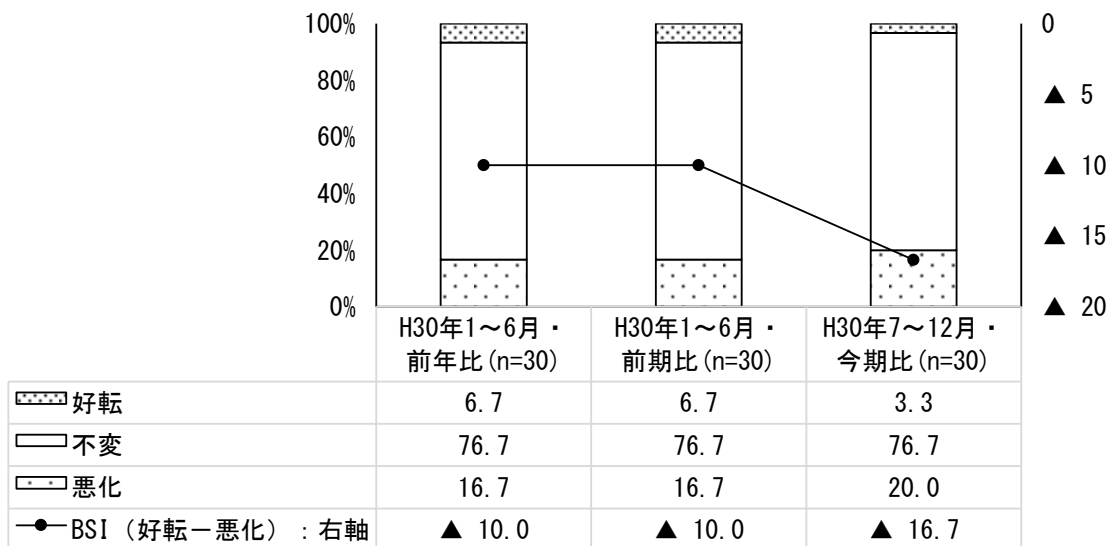
今期の資金繰りが、前年同期と比べて「好転」と回答した企業の割合は6.7%、「不変」は76.7%、「悪化」は16.7%となっている（図表2-5）。

また、今期の資金繰りが、前期と比べて「好転」と回答した割合は6.7%、「不変」は76.7%、「悪化」は16.7%となっている。

来期の資金繰りの見通しについて、今期と比べて「好転」と回答した割合は3.3%、「不変」は76.7%、「悪化」は20.0%となっている。

この結果、資金繰りBSIは、今期が▲10.0、来期が▲16.7となり、今期から来期にかけて悪化する見通しとなっている。

図表2-5 資金繰りの推移



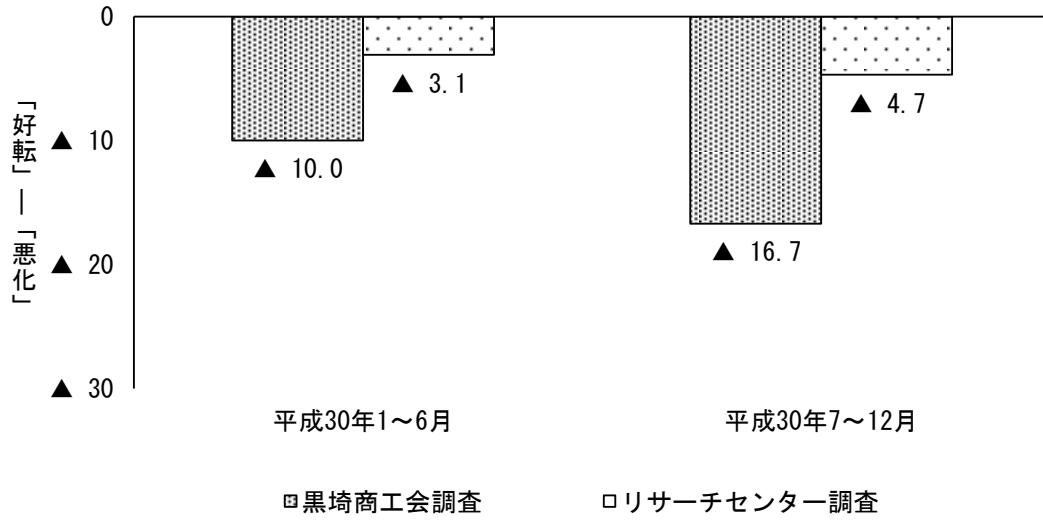
(注) 無回答がある場合、無回答を除く

【参 考】

「リサーチセンター調査」をもとに、新潟県内の企業の資金繰りBSIをみると、今期が▲3.1、来期が▲4.7とやや低下する見通しとなっている（参考図表2-5）。

黒埼商工会調査、リサーチセンター調査とも同様の結果となっている。

参考図表2-5 資金繰りの推移



（資料）一般財団法人新潟経済社会リサーチセンター「新潟県企業動向調査」

(6) 雇用動向

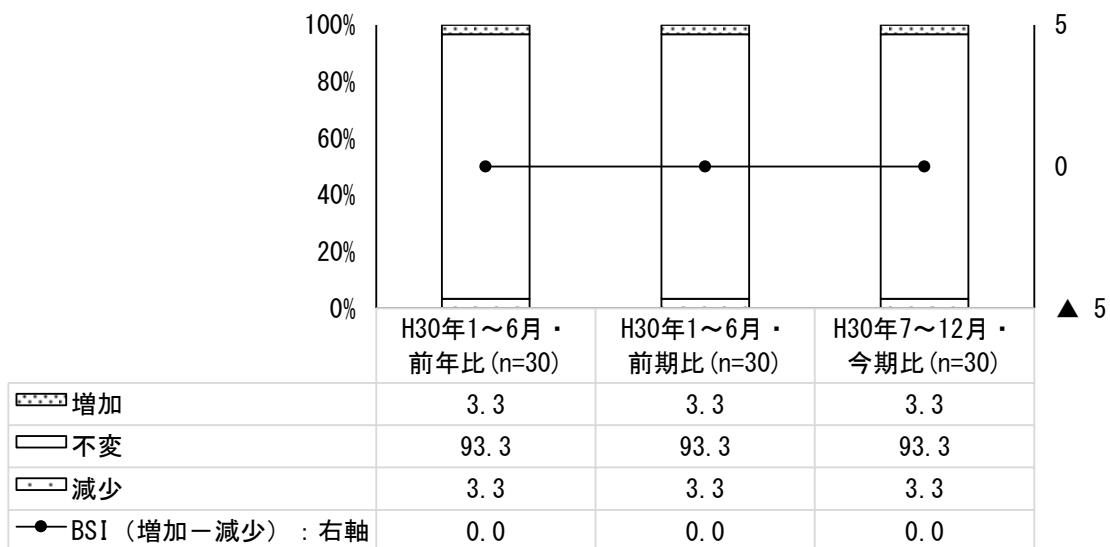
今期の雇用動向が、前年同期と比べて「増加」と回答した企業の割合は3.3%、「不変」は93.3%、「減少」は3.3%となっている（図表2-6）。

また、今期の雇用動向が、前期と比べて「増加」と回答した割合は3.3%、「不変」は93.3%、「減少」は3.3%となっている。

来期の雇用動向の見通しについて、今期と比べて「増加」と回答した割合は3.3%、「不変」は93.3%、「減少」は3.3%となっている。

この結果、雇用動向BSIは、今期および来期とも0.0となり、今期から来期にかけて横ばいで推移する見通しとなっている。来期の雇用動向について、今期から「不変」とする事業者が大半を占めていることから、雇用動向に大きな動きはないものとみられる。

図表2-6 雇用動向



(注) 無回答がある場合、無回答を除く

(7) 景況判断

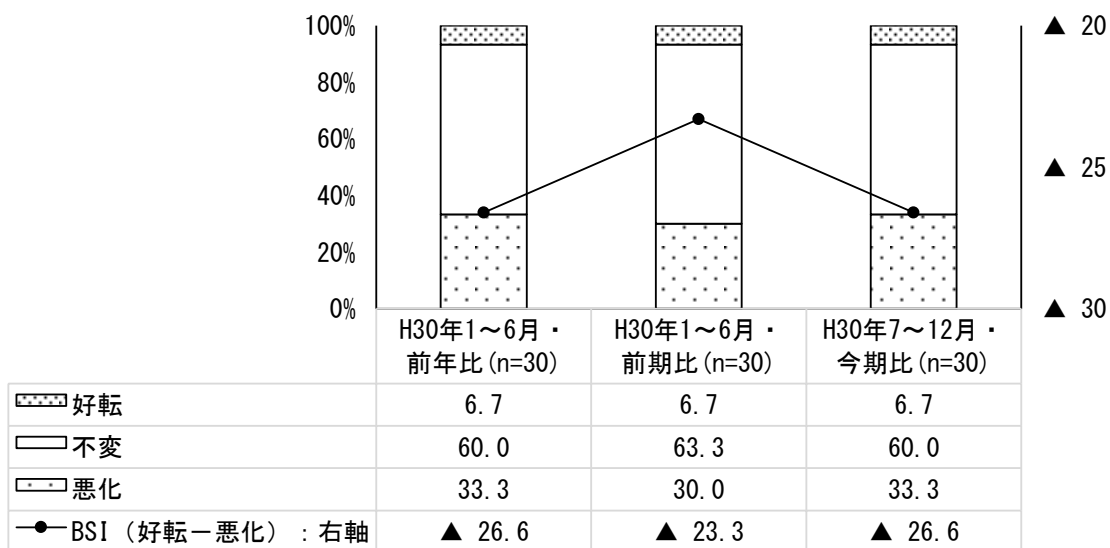
今期の景況判断が、前年同期と比べて「好転」と回答した企業の割合は6.7%、「不変」は60.0%、「悪化」は33.3%となっている（図表2-7）。

また、今期の景況判断が、前期と比べて「好転」と回答した割合は6.7%、「不変」は63.3%、「悪化」は30.0%となっている。

来期の景況判断の見通しについて、今期と比べて「好転」と回答した割合は6.7%、「不変」は60.0%、「悪化」は33.3%となっている。

この結果、景況判断BSIは、今期が▲23.3、来期が▲26.6となり、今期から来期にかけて、やや低下する見通しとなっている。来期の景況判断を「好転」と見通す事業者が一部にとどまる一方で、今期から「不変」または「悪化」を見通している事業者が大半を占めることから、景況判断は厳しい状況が続くとみられる。

図表2-7 景況判断の推移



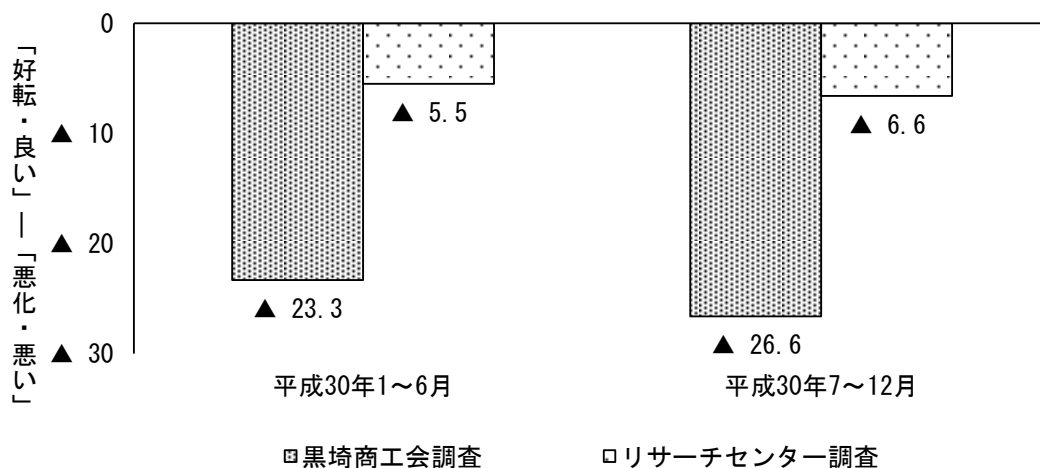
(注) 無回答がある場合、無回答を除く

【参 考】

「リサーチセンター調査」をもとに、新潟県内の企業の業況判断BSI※をみると、今期が▲5.5、来期が▲6.6 とほぼ横ばいで推移する見通しとなっている（参考図表2-6）。

黒埼商工会調査では、景況判断BSIはやや低下するほか、景況判断BSIの水準は、リサーチセンター調査の業況判断BSIに比べて低くなっている。

参考図表2-6 景況・業況判断の推移



（資料）一般財団法人新潟経済社会リサーチセンター「新潟県企業動向調査」

※リサーチセンター調査では、業況を四半期毎（1～3月、4～6月、7～9月、10～12月）に尋ねていることから、グラフでは1～6月に1～3月と4～6月の平均、7～12月に7～9月と10～12月の平均を表示

※リサーチセンター調査では、景況判断ではなく、業況判断を尋ねている

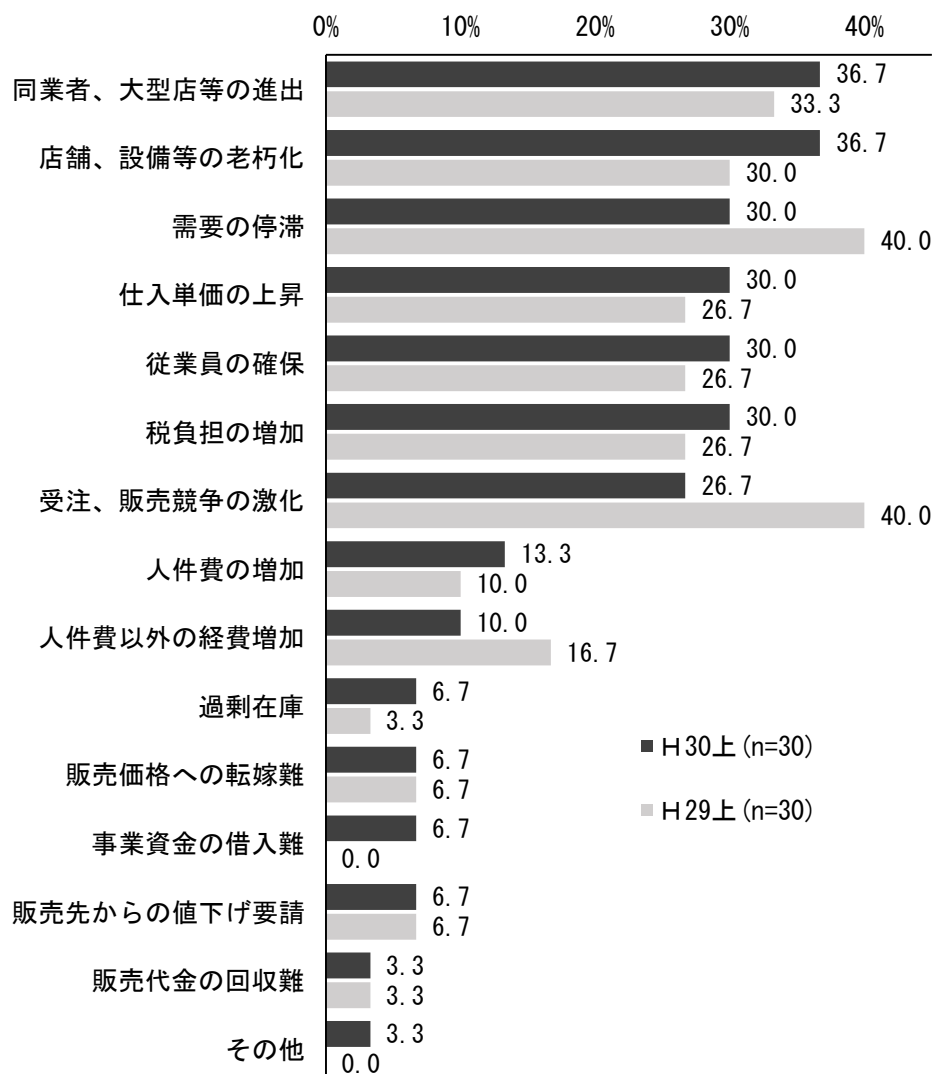
(8) 経営上の問題点

経営上の問題点をみると（3つまでの複数回答）、「同業者、大型店等の進出」と「店舗、設備等の老朽化」（各 36.7%）の割合が最も高く、以下「需要の停滞」「仕入単価の上昇」「従業員の確保」「税負担の増加」（各 30.0%）、「受注、販売競争の激化」（26.7%）などとなっている（図表2-8）。

上位項目の問題点から推察すると、同業者や大型店などの他社との競争の激化を背景とした売上高の確保に苦慮している事業者や、設備等の老朽化を問題視している事業者が多数を占めているものとみられる。

また、平成29年度上期調査と比較すると、「需要の停滞」や「受注、販売競争の激化」「人件費以外の経費増加」などの割合が低下している。一方、「同業者、大型店等の進出」や「店舗、設備等の老朽化」「仕入単価の上昇」「従業員の確保」などの割合が上昇している。

図表2-8 経営上の問題点（3つまでの複数回答）



(9) 今後の事業・経営において強化したい点

今後の事業・経営において強化したい点を自由回答形式で尋ねたところ、図表2-9のとおりとなっている。

図表2-9 今後の事業・経営において強化したい点

今後の事業・経営において強化したい点	業種	従業員数
経費削減	製造	6人～20人
設備投資、従業員の確保	建設	1人～2人
現場毎の収益の改善、人手不足による若年層従業員の確保	建設	6人～20人
販路開拓	建設	6人～20人
若い人材を確保していきたい	建設	3人～5人
生産の向上	卸・小売業	3人～5人
販路開拓に力を入れていきたい	卸・小売業	3人～5人
新製品の開発	卸・小売業	1人～2人
従業員の確保	サービス他	3人～5人
仕入先の再検討	サービス他	3人～5人
現状維持	サービス他	1人～2人
設備投資 (ATFチェンジャー、A/Cガスチャージャーが交換時期)	サービス他	3人～5人
強化中 (新しい機械の導入、スマホ用ホームページ作成による販路開拓)	サービス他	3人～5人

(10) 商工会への要望・意見等

商工会への要望・意見等を自由回答形式で尋ねたところ、図表2-10のとおりとなっている。

図表2-10 商工会への要望・意見等

商工会への要望・意見等	業種	従業員数
経理面の指導	建設	6人～20人
法人から個人事業に変更したい	卸・小売業	1人～2人

Ⅲ. アンケート調査結果のまとめ

今回実施した「景況調査」の主な項目について、調査結果のポイントを以下のようにまとめた。

【回答企業の属性】

- 回答企業の業種は、「製造」（3件）、「建設」（6件）、「卸・小売業」（10件）、「サービス他」（11件）となっている。
- 従業員数は、「3人～5人」（50.0％）の割合が最も高く、以下「1人～2人」（36.7％）、「6～20人」（10.0％）、「0人」（3.3％）などとなっている。
- 企業区分は、すべて「小規模事業者」（100.0％）となっている。
- 後継者の有無は、「有り」（33.3％）の割合が約3割であるのに対し、「無し」（66.7％）が約7割となっている。

【景況調査】

- 平成30年1～6月（以下、今期）の売上BSIが▲26.7、平成30年7～12月（以下、来期）の売上BSIが▲43.4となり、今期から来期にかけて低下する見通しとなっている。来期の売上を「増加」と見通す事業者の割合が今期から低下する一方で、来期の売上を「減少」と見通す事業者の割合が今期から上昇しており、全体的には厳しい状況が続くとみられる。
- 採算BSIは、今期が▲26.7、来期が▲40.0となり、今期から来期にかけて低下する見通しとなっている。来期の採算（経常利益）を「増加」と見通す事業者の割合が今期から低下する一方で、来期の採算（経常利益）を「悪化」と見通す事業者の割合が今期から横ばいで推移するほか、「不変」と見通す事業者の割合が上昇していることから、全体的には厳しい状況が続くとみられる。
- 仕入単価BSIは、今期が33.3、来期が36.7となり、今期から来期にかけて、やや上昇する見通しとなっている。来期の仕入単価を「低下」と見通す事業者が皆無の一方で、今期から「上昇」または「不変」とする事業者が大半となっており、仕入単価の上昇または高止まり感が続くとみられる。
- 販売（客）単価BSIは、今期が▲23.4、来期が▲13.4となり、今期から来期にかけて上昇する見通しとなっている。しかし、来期の販売（客）単価を「上昇」と見通す事業者が一部である一方で、今期から「不変」とする事業者が大半を占めていることから、販売（客）単価の上昇は限定的な状況にあるとみられる。
- 景況判断BSIは、今期が▲23.3、来期が▲26.6となり、今期から来期にか

けて、やや低下する見通しとなっている。来期の景況判断を「好転」と見通す事業者が一部にとどまる一方で、今期から「不変」または「悪化」を見通している事業者が大半を占めることから、景況判断は厳しい状況が続くとみられる。

- 経営上の問題点をみると（3つまでの複数回答）、「同業者、大型店等の進出」と「店舗、設備等の老朽化」（各 36.7%）の割合が最も高く、以下「需要の停滞」「仕入単価の上昇」「従業員の確保」「税負担の増加」（各 30.0%）、「受注、販売競争の激化」（26.7%）などとなっている

資料編

(様式③)

No.	
-----	--

景況調査ヒアリングシート (平成30年度)

調査対象期間 平成30年1月～6月
(調査時点 平成30年6月1日)

商 工 会 名	黒埼商工会	担当職員名	
企 業 の 概 要	業 種	1:製造 2:建設 3:卸・小売業 4:サービス他	
	従業員数	1:0人 2:1人～2人 3:3人～5人 4:6人～20人 5:20人超	
	企業区分	1:小規模事業者 2:小規模事業者以外	
	後継者の有無	1:有 2:無	

(1) 貴社の状況についてお答えください。(該当する番号に○を付してください。)

	前年同期 (H29年1～6月) と比較して	前期 (H29年7月～12月) と比較して	今期 (H30年1～6月)と 比較した来期 (H30年7～12 月)の見通し
売 上	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少
採算(経常利益)	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化
仕 入 単 価	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下
販売(客)単価	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下
資 金 繰 り	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化
雇 用 動 向	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少
景 況 判 断	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化

(2) 貴社の経営上の問題点(下記より上位3つまでを選び、○を付してください。)

- ①受注、販売競争の激化 ②同業者、大型店等の進出 ③過剰在庫
- ④店舗、設備等の老朽化 ⑤販売代金の回収難 ⑥需要の停滞
- ⑦仕入単価の上昇 ⑧販売価格への転嫁難 ⑨人件費の増加
- ⑩人件費以外の経費増加 ⑪事業資金の借入難 ⑫従業員の確保
- ⑬販売先からの値下げ要請 ⑭税負担の増加
- ⑮その他 ()

(3) 今後の事業・経営において強化したい点(設備投資・販路開拓等)

(4) 商工会への要望・意見等

平成30年度 黒埼商工会 上期景況調査

報 告 書

平成30年8月

黒 埼 商 工 会